



◇特別支援学校のコーディネーターの地域支援活動について

特別支援学校のコーディネーターは、地域の特別支援教育のセンター的役割を担うことが求められています。そのため、地域の保育所・幼稚園、小・中・高等学校において学習面や対人面などで悩みを抱える子供たちの教育相談を行っています。昨年度は、来訪相談が230件、電話相談が248件、要請訪問相談が401件、連携会議等への参加が49件、研修会の講師依頼が33件ありました。



来訪相談の多くは、聴覚部門の乳幼児教育相談になります。それ以外の相談は、地域の学校等に出向いて相談しています。地域支援活動では、子供の様子を観察したり、保護者や先生方と子供の支援のあり方について共通理解を図るための話し合いをしたりしています。子供の支援を語る上で必要となるのが、客観的な指標となる発達検査の活用です。発達検査は子供の苦手なところだけでなく、周囲の大人や本人自身が見落としがちな得意なところやうまくいく手立てを見出す道具でもあります。相談の対象となる子供たちのほとんどが通常の学級に在籍していますが、ちょっとした配慮や周囲の理解によって、安心して学校生活を送ることができる場合もあります。地域の学校では集団に合わせることを求められることが多くありますが、一人ひとりのニーズに合わせて学習課題を設定しながら、力を発揮できる環境をつくっていく発想は、特別支援学校の文化かもしれません。そうした発想を広げていくことがセンター校としての役目ではないかと考えています。(南蘭)

延岡市小・中学校特別支援教育 コーディネーター研修会

5月14日、延岡市教育委員会主催で、延岡市内の小学校27校、中学校16校の特別支援教育コーディネーターを招集した研修会が行われました。

就学支援・相談に関する情報提供や地域の関係機関の紹介、中学校区を単位としたグループ協議等があり、小学校から中学校への引継ぎに関する話し合いが行われました。中学校の職員が小学6年生の授業参観を行う校区もありました。小学校から中学校になると子供たちの「困り感」^(※)が大きくなります。

中学校での生活をよりよく過ごすためにも小中の共通理解は大切です。中学校の通級指導教室(しろやま学級)利用の紹介もありました。また、本校で作成した教材の展示も行いましたが、地域の学校でも活用してほしいと思います。

各学校・関係機関が連携して、児童生徒の支援に取り組むことの大切さを確認する研修会となりました。*「困り感」学研の登録商標



☆教材展示のようす



☆協議のようす

6月の予定

- 1日 現場実習説明会
PTA役員会(たいよう)
- 2日 手話学習会
- 3日 巡回療育相談
- 5日 発達支援モデル事業
- 8日 PTA役員会
- 9日 手話学習会
- 11日 PTA役員会(新聞)
- 13日 K-ABCアセスメント研究会
- 15日 手話学習会
- 17日 巡回療育相談
- 18日 延岡市教委初任者研修会
- 19日 県特研連県北ブロック部会
- 22日 ことばの教室(ひかり学園)
- 24日 視覚支援サテライト相談

*個別面談などは、お問合せ下さい

～こども支援部から～

・相談支援ファイルの在庫がありますので、必要な方は問い合わせ下さい。

連絡・問合せ先

延岡しろやま支援学校

TEL 0982-29-3715

FAX 0982-29-3716

地域教育支援センター

【直通電話】Tel 0982-29-3714

スタッフ不在の場合は、事務室まで連絡下さい。